

はじめに



昨年、日本人の自然増加数が、統計開始以来初めて減少に転じることが発表されました。神奈川県の人人口も平成21年にはピークを迎え減少していくと予測されています。合計特殊出生率が低下を続け、高齢化とともに少子化が急速に進む中、社会構造は大きな転換期を迎えています。私たちは今、人口減少社会と真摯に向かい合い、成熟した豊かな社会を形成していく道を探る時期にきています。

私たちの郷土神奈川は、豊かな自然に恵まれ、特色ある歴史と風土が織りなす多彩な魅力にあふれています。そして、進取の気風に富んだ人々が暮らし、NPOなどの県民の皆様による自主的な活動も大変活発に行われています。こうした風土の中で、未来を担う青少年が夢を持ち、さまざまな体験を通じて、たくましく生きる力と思いやりの心を持った人間として成長していくことは、県民すべての願いです。

しかしながら、青少年を取り巻く環境は、生活が便利になる一方で有害情報が氾濫し、また、都市化や核家族化によって地域の人間関係が希薄になり、社会性や協調性、あるいは連帯感などをはぐくむことが難しくなっています。さらに、ひきこもりやニートなど青少年の社会的な自立の遅れも大きな社会問題となっているほか、青少年が加害者や被害者となる痛ましい事件が全国で相次ぐなど、大変憂慮すべき状況にあります。

こうした中で青少年の育成と自立を支える社会をつくりあげていくためには、県民の皆様のご知恵と力を結集して取り組んでいかなければなりません。そこで、県では、県民の皆様のご理解とご協力、そして責任の下で、青少年の育成と自立への支援を進めていくための道しるべとして、平成17年3月に「かながわ青少年育成指針」を策定しました。また、12月には、相次ぐ事件を受けて、子どもたちの安全を守るために緊急アピールを出したところです。今こそ、私たち県民一人ひとりが、子どもたちの健全育成に関心を持ち、一歩を踏み出す時です。

この「かながわの青少年」は、神奈川の青少年に関する現状と、県が実施している施策を取りまとめたものです。この白書が、青少年についての理解を深め、県民の皆様がそれぞれの立場から青少年の健全育成に向けて積極的に取り組んでいただく一助となることを心から願っています。

平成18年3月

神奈川県知事 松沢 成文
(神奈川県青少年総合対策本部長)